

課題名： ミクログリア転写因子IRF8を切り口にした慢性疼痛メカニズムの解明

氏名： 津田誠

機関名： 九州大学

1. 研究の背景

現在、全世界で2000万人以上の患者さんが、癌や糖尿病、帯状疱疹などに伴う慢性的な耐え難い痛みを苦しんでいます。なぜ、痛みが慢性化するのか？その原因は不明で、有効な治療法もありません。

2. 研究の目標

この研究では、現代医療が抱える全世界的な問題「慢性疼痛」の克服に向けて、その原因を解明し、革新的な医薬品や診断法の開発に繋げることを目標にします。

3. 研究の特色

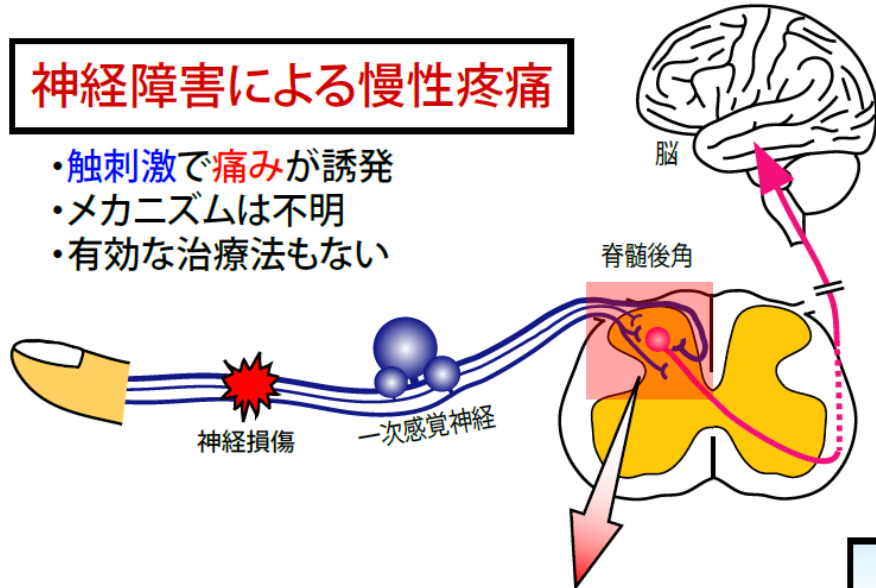
私たちは、脳・脊髄にある「ミクログリア細胞」が慢性疼痛の原因細胞の一つであることを発見し、さらに最近、このミクログリア細胞の内部で痛み遺伝子の働きをコントロールするタンパク質として「IRF8」を世界で初めて特定しました。そこで、これら独自の発見を軸に、ミクログリア細胞におけるIRF8の役割を詳細に調べあげ、ミクログリア細胞が作り出す慢性疼痛メカニズムの全容解明を狙います。

4. 将来的に期待される効果や応用分野

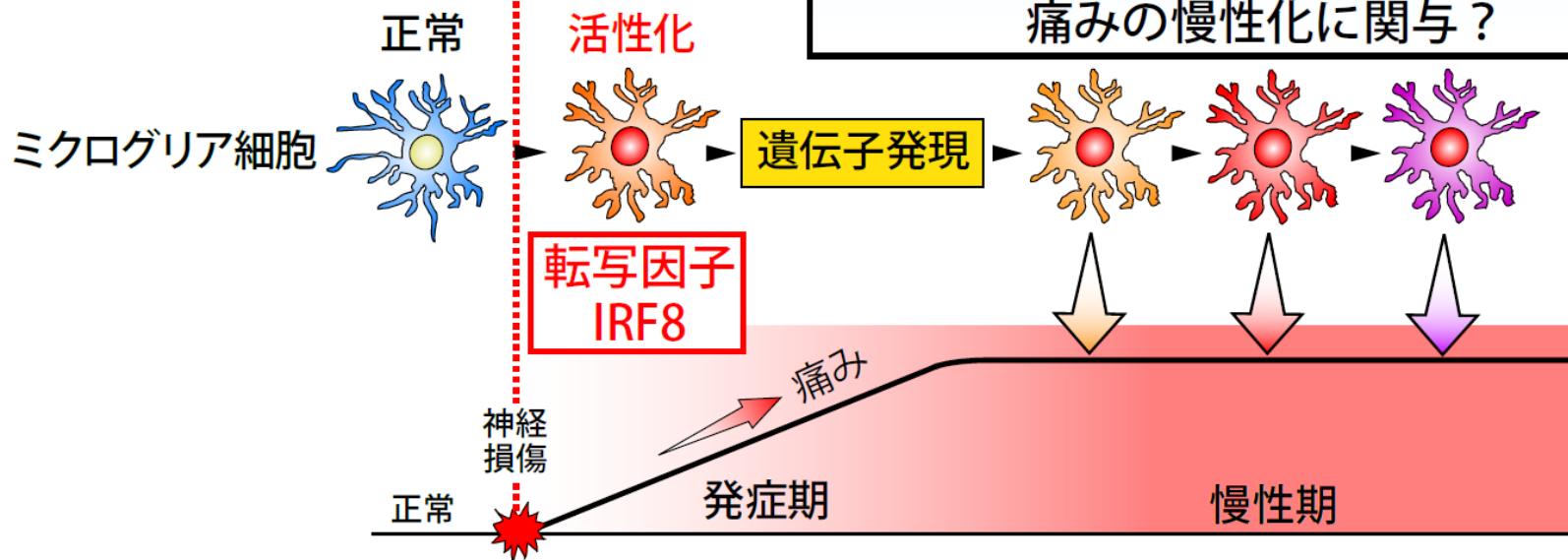
この研究成果は、慢性疼痛への画期的な次世代医薬品や診断法の開発に繋がることが期待できます。慢性的な痛みは、人々の活力を低下させ、社会・経済にも悪影響を及ぼします。私たちが目指す慢性疼痛の原因究明は、そのような問題の解決、さらには活気あふれる健康社会の実現などに大きく貢献することが期待されます。

神経障害による慢性疼痛

- 触刺激で痛みが誘発
- メカニズムは不明
- 有効な治療法もない



どのような機能を獲得したミクログリアが痛みの慢性化に関与？



ミクログリア転写因子IRF8を切り口にして慢性疼痛メカニズムの解明を目指す